

natural science communication

～ ナチュラルな科学コミュニケーションを～

特定非営利活動法人 natural science 理事

有限会社 FIELD AND NETWORK 取締役

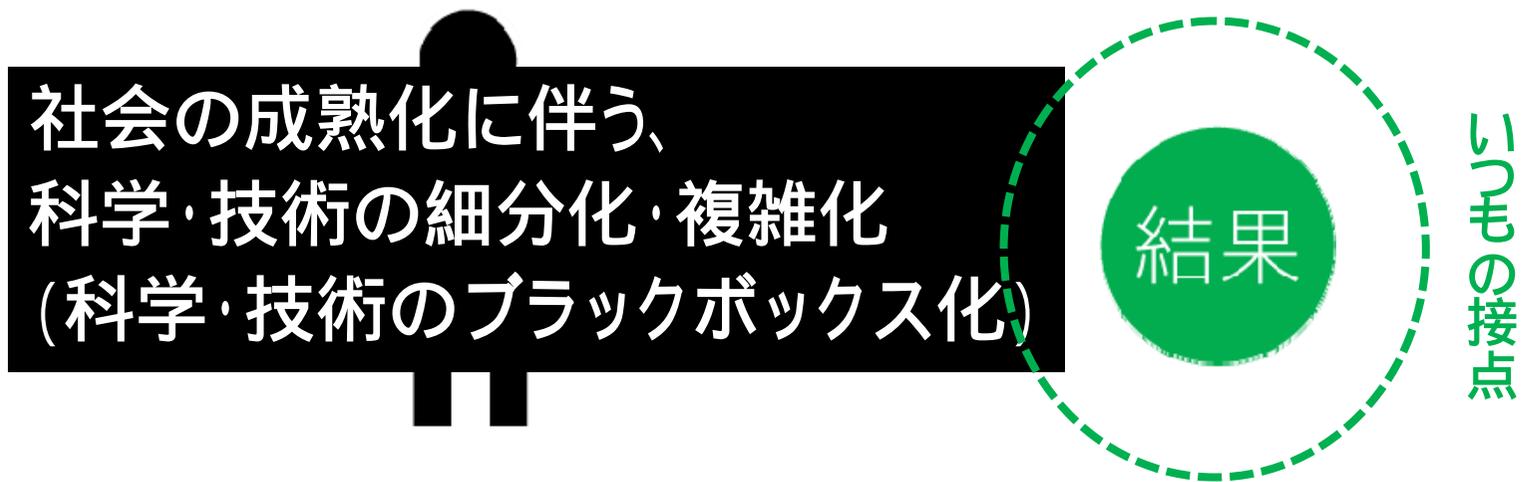
大草 芳江

平成22年6月19日(土)
「科学・技術ミーティングin仙台」

1. 問題認識

“科学”に対する一般的なイメージ（小中高大の教育を振り返って）

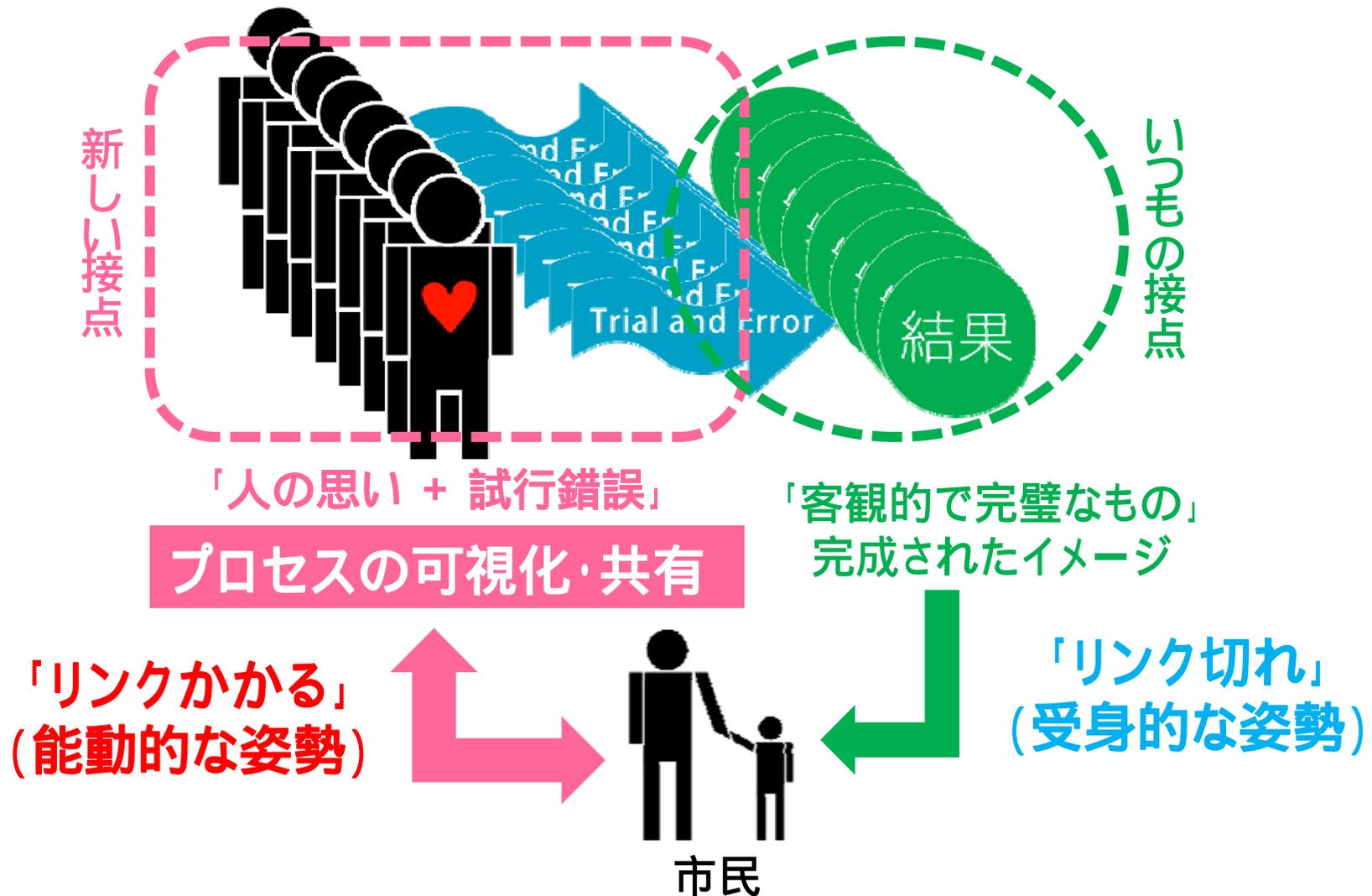
「既に出来上がった体系、客観的で完璧なもの」



科学・技術のもたらす結果を一方向的に享受するだけの姿勢(受身)

「科学離れ問題」「科学リテラシー不足」などの社会的リスク

2. 受身から能動へ プロセスの可視化・共有



3. 実践例

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』

CONCEPT

“科学”の**プロセス**を
五感で体験できる場
“科学”を切り口に
地域を再発見できる場

- ・大学・研究機関や企業、行政機関等
約50団体の研究者・技術者が参加

サイエンスを五感で感じる・サイエンスで地域が見える
学都 仙台・宮城 **サイエンスデイ**

科学のプロセスを五感で
体験できる科学イベントが
仙台・宮城で大集合!!

2010



日時：2010年7月11日(日) 10:00～17:00 ※交流会18:00～

会場：東北大学川内北キャンパス講義棟 (仙台市青葉区川内 41)

対象：子どもから大人までどなたでも

主催：特定非営利活動法人 natural science

後援：東北大学、東北経済産業局、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、
(社)東北経済連合会、(財)東北産業活性化センター、(独)産業技術総合研究所東北センター、
(社)日本技術士会東北支部、(社)みやぎ工業会、(社)発明協会宮城県支部、
宮城県中小企業団体中央会、(財)みやぎ産業振興機構、東北学院大学、東北工業大学、
東北放送、TBC東北放送、仙台放送、仙台テレビ放送、仙台エフエム放送、仙台エフエム放送、
読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、産経新聞社東北総局、毎日新聞仙台支局、日刊工業新聞仙台総局

POINTはただひとつ

「人」のリアリティに「伝わる」力あり

研究者・技術者本人「おもしろい」と思うプロセス



子どもから専門家まで各人各様に楽しむことができる

「伝える」ではなく「伝わる」ことが大切

研究者・技術者の側から

普段の研究・開発を一生懸命やっている研究者・技術者ほど、

「プロセス」共有に喜び

内発的モチベーション発揮できる前提が大切

以上のことから、
科学コミュニケーションについて
感じたことは…

4 . 科学コミュニケーション 課題として感じること

昨今、科学コミュニケーションの重要性が叫ばれ、
さまざまな取組みが実践されている。

しかし依然として、研究者・技術者等は
「やれって言われるからやっている」という「やらされ感」
(外発的モチベーション)

精神的な負担に

5 . 科学コミュニケーションの前提

そもそも・・・

科学の「おもしろさ」は、**各人各様**

6. 科学コミュニケーションに対する提案

【キーワード】 「プロセス」

研究者・技術者本人が「おもしろい」と思うものの形に
子どもから専門家まで「伝わる力」に

【キーワード】 「地域」

遠い世界の話ではなく、身近な地域の要素を活用
「人」や「プロセス」を実感しやすい

7. 最後に

科学は、対象に直接触れ、自分の目で見て、
自らの五感で感じることから始まる。

そのはじまり方は**各人各様**。

科学コミュニケーションのスタンスもそうありたい。

natural science communication
～ ナチュラルな科学コミュニケーションを～